

1 城下町の寺院配置



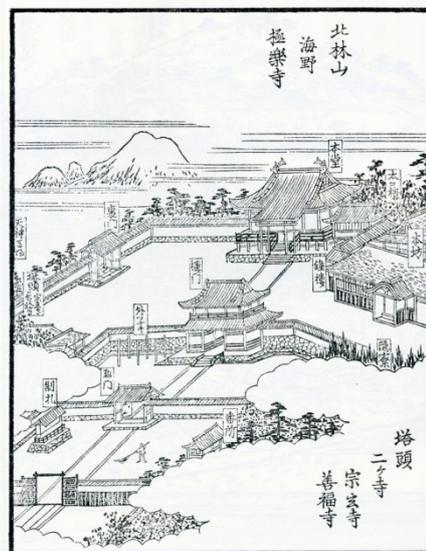
上図は幕末の松本町の寺院配置である。多くの城下町が城の最前線<sup>てらまち</sup>に寺町を設け寺院を密集させて防衛拠点としている場合が多いが、松本は城の外周に寺院を集めているように思われる。この様な寺院配置は一夕にしてできたものではなく歴代の城主によって町中<sup>まちなか</sup>にあった寺院が外周へ移されていく過程を経て生まれたものである。何回も移転を重ねて上図の位置に落ち着いた寺院もあるし、移封にともなって領主に付いて移っていった寺院もある。松本藩の寺院は明治3年から4年に吹き荒れた廃仏毀釈によって破却されたものが多い。松本町では浄土真宗寺院である正行寺・極楽寺・宝栄寺・長称寺の四ヶ寺は破壊を免れ市外広沢寺、玄向寺は旧領主の墓所ゆえに破却を免れた。また、水野家ゆかりの乾瑞寺・堀田氏ゆかりの恵光院は廃寺となったが、特別の理由により寺地建物とも寺僧へ下付された。(旧松本市史)

今回町中<sup>まちなか</sup>にあってその後、移された極楽寺と最後まで町中<sup>まちなか</sup>にあった乾瑞寺を取り上げる。

2 北林山極楽寺(浄土真宗)

「善光寺道名所図会」によれば小県郡海野の住人海野三郎重広が親鸞の弟子となり極楽寺を開基したという。その後、永禄3年(1560)12代了専の時、武田信玄の命により筑摩郡栗林に移った。「信府統記」によりその後の状況を見ると、寛永2年(1625)戸田康長の時代に本町1丁目(女鳥羽川左岸・旧開智学校のあった場所)に移転した。そ

の後「松本市史」によれば明暦2年（1656）11月15日極楽寺が焼失したので、時の藩主水野忠識は本町5丁目の現在地へ極楽寺を移し、翌年、本町1丁目の極楽寺跡へ、寛永年中に松本城外（場所不明）に建立していた水野家の菩提所 春了寺を移した。



本町1丁目にあった頃の規模は、境内東西56間・南北62間で、本町5丁目に移ってからの享保9年（1724）には境内東西35間・南北40間の規模になっている。

善光寺道名所図会の極楽寺→

本町通りを北に向かって進行すると、天神通りの手前東側に極楽寺山門が見える。この山門は「信府統記」によれば元禄9年（1696）水野忠直が極楽寺参詣の為に本町からの参道と山門を造らせたものである。河辺文書「太守累年記」には山門を造ったのは、領主が極楽寺に参詣する場合本町を南進して、天神通りで東に曲がり、暫く進んで右折して極楽寺の大門をくぐって参詣するので道筋が煩雑であるということで、町家を移して本町通から直接参詣できるように参道が造られたと記している。



極楽寺山門

極楽寺は明治初年の松本藩の廃仏毀釈に対して真宗寺院で連合して反対し難を免れている。

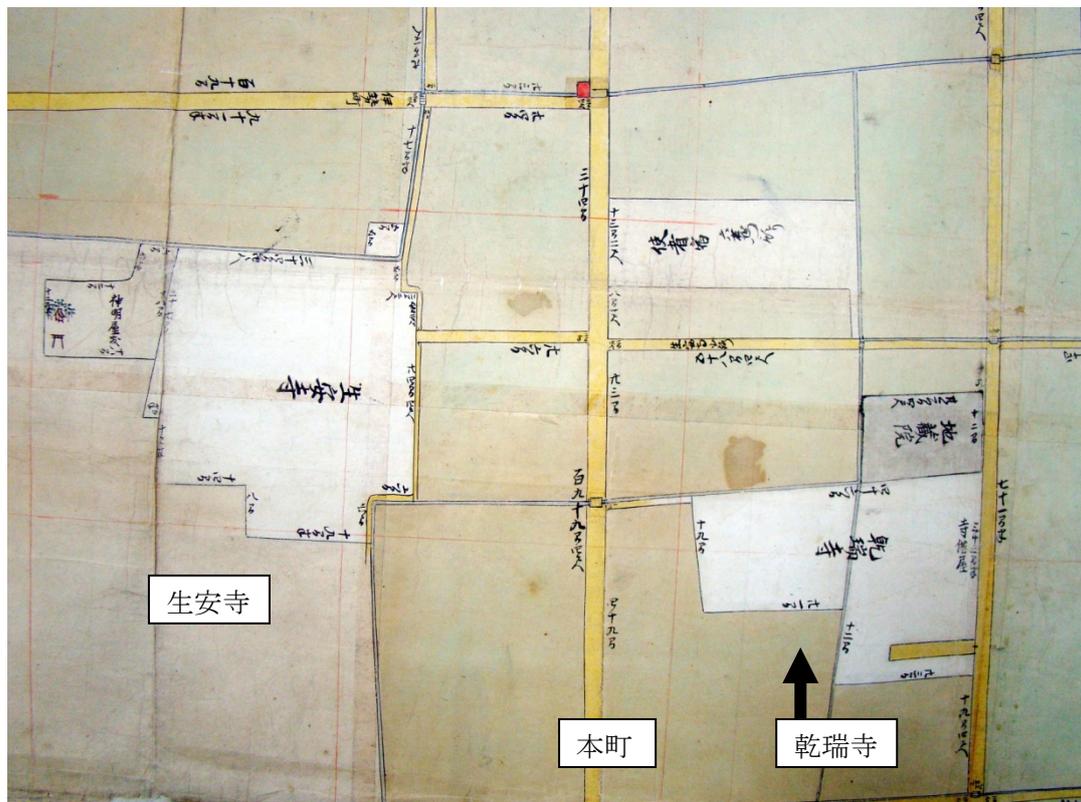
### 3 護法山乾瑞寺 (禅寺)

松本中央郵便局の北側の小路を東に入り郵便局の敷地に添って右折すると乾瑞寺跡がある。この町中に位置する寺は、慶安元年（1648）水野忠職が自分の弟に当たる京都妙心寺養賢院（のち性宣院）の竜天和尚を招請して建立した水野家ゆかりの寺である。境内は本町と飯田町にかかり「信府統記」は境内飯田町南北31間3尺、東西22間3尺、本町南北18間3尺、東西22間。慶安4年



には本町矢島茂左衛門の持ち地間口1間、奥行き10間5尺を買い受け本町に通ずる裏門

を造っている。この本町から乾瑞寺へ通ずる小路を乾瑞寺小路と呼んだ。



享保十二年秋改松本城下町絵図・乾瑞寺。乾瑞寺小路

承応3年（1654）には忠職が熊倉新田22石を寺領として寄附している。水野家は享保10年（1725）改易となるが乾瑞寺は以後も存続している。文化7年（1810）『松本御領御免状高組都合写』（長野県史近世史料編第五卷二）には成相組の定納高の中に一貫八百文の「乾瑞寺領役銭」の文言があり寺領も存在していることが分かる。

寛文11年（1671）忠職は自分と弟竜天和尚の生母で前田利家の養女福寿院の遺骨を葬っている。福寿院殿性宣妙演尼大姉の墓は乾瑞寺跡の南側中央にある。

しかし乾瑞寺は明治初年の松本藩の廃仏毀釈により廃寺となった。水野家の位牌は最後の住職寛道（江順）や心ある人々の手で木沢正麟寺に安置され、昭和20年夏ころ位牌は16代当主水野栄次郎氏によって自宅に移され仏間に安置されている。乾瑞寺の末寺東昌寺は廃仏毀釈後幾多の困難を乗り越えて現在女鳥羽川右岸の白板にある。

平成14年（2002）17代当主水野秀一氏によって乾瑞寺跡に解説碑が建てられた。解説碑には 乾瑞寺の由来・松本城主水野家略系図・寺歴・境内図・城下川南の図が刻されている。

明治になって筑摩県属長尾無墨が住み廃寺跡に梅を植えたことから乾瑞寺小路は「梅園小路」とも呼ばれた。